

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「春の小川は、さらさら…」と歌いながら、カラカラ笑って楽しそうに歩き続ける婦人。歩き続けて、そこに居る人に「…」と話しかけ、又歩く婦人。今日の食事をする人の人員を確認し、全員の食器、ナプキンを数え、食事の準備をする婦人。外出好きで、1日何回でも出掛け、道のゴミも片付けていく婦人。等々、みんな忙しいけれど、安心して穏やかな表情で、自分の行動をしている。

大変厄介なピック病という病気に苦しみ、薬物療法で行動を抑制された患者さんを、私達が人間としての尊厳を大切にして、それぞれの人らしい生活を蘇らせようと辛抱を重ね、ピック病患者のケアと戦った集団が、このグループホームの管理者と職員である。病院などで、その人らしさを失いかけていた利用者をグループホームに引き取って、薬を抜き、人対人の手厚いケアを重ね、職員一同が、きっとこの人が元気になる日が必ず来るということを信じ、それぞれの利用者として接してきた成果が、冒頭に書いた微笑ましい姿にある。

歩きながらソファに座ってお菓子を食べたり、明るく語りかけてくれる。2年前のこの人達の状態をビデオで拝見すると、よくぞこんなに元気を取り戻したと感心する。家族の方も遠方からよく来られ、自分の妻と一時を過ごす。「何か夢のようです」「こんなになって唯嬉しいだけです」と苦悩した過去から安堵感一杯に話してくれた。

管理者の元、一致団結してピック病患者のケアに励む世界でも稀なグループホームを見た。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

ピック病の患者のケアの難しさのために創設されたグループホームを背負う管理者と職員は、「介護の現場から離れたくない」「利用者と共に働きたい」と先駆的なケアを実践している。ピック病の患者を救えるのは、将に心目指した人間の集団である。ピック病の患者は、普通の老人性認知症の患者と一緒に暮らしているグループホームも多い。是非人材育成を行い、ピック病専用のグループホームを各地に設置できるよう指導的存在となって頂きたい。

沢山のグループホームや在宅でピック病患者を抱えているので、ピック病と介護についての情報をもっと積極的に発信して頂き、ケアマネジメントの中にその知識を浸透して頂きたい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	ブライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
ピック病特有の一人ひとりの症状や気質を職員は熟知していて、それぞれの人にふさわしい対応をして、各利用者が自分の生活が出来るようにケアしている。食器洗い機や洗濯機の操作を間違えて運転しているのを、職員がやり直すように促そうとする。食器洗い機や洗濯機の操作を間違えて運転しているのを、職員がやり直すように促そうとする。と反対に怒りだしたりする。本人がやる気を失うことなく、間違いに気付くまで何回も何回も優しく繰り返しながら、正しい操作をして貰って、食事の準備から片付けまで、又、洗濯物をきちんと畳んで、てきぱきと片付けが出来た人々もいる。ピック病の代表的な「わが道を行く」という症状を完全に拭き取ることは出来ないだろうが、当の本人はすっかり家事を取り仕切る人の顔になっている。あるピック病の患者さん本人から「薬を減らして下さい」という申し出があり、薬物療法を少なくしていき、本人も元気になって退所したという事例もあったそうだ。職員の我慢と努力の結果、その効果を目の当たりにすると、「成せば成る」の言葉通り、利用者本人の意欲、家族の喜びと感謝そして応援、職員の強い意志と実践の三位一体が、このピック病専門のグループホームを育てている。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。
このグループホームにとって最も重要なことは「職員のチームワーク」だと管理者は言う。そして「利用者と共に暮らしを楽しむ」とこの大切さを強く訴えていた通り、職員は生き生きとしていて、個性溢れる若さが見え続けている。職員の顔や態度から暗さや苦しみを感ぜさせない。「食はとても大切です。人の心を左右します。今の日本人は忘れ勝ちになっていきますけど」と管理者の話が続く。毎食献立を決め、買物をし、職員が交代で調理する。調理の本や雑誌が何十冊と本棚に並んでいる。この本からもレシピを選び、色々なメニューが出現する。皆んな料理が上手でホームで二食は食べている職員が殆んど。夕食の話が出ると声のトーンも上がる。利用者も美味しくそうによく食べる。
人らしい暮らしを取り戻そうとする強い信念と長期に亘るケアの不安と達成感、このような境遇から生まれてくるのであろうし、まさにこれこそがグループホームのサービスの質の向上につながっていると思う。

事業所名

グループホーム ローゴム

日付 平成17年3月3日

特定非営利活動法人

評価機関名

高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 在宅介護経験8年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か
「ピック病による認知症の人」：家族や施設での日常生活が大変困難な状況であるが、薬物療法に頼らず、グループホームで生活するには、想像も出来ないような日常があったに違いない。薬のせいとか、病気による症状の進行も分からない状況下で、薬を徐々に減じながら、その人らしい普通の暮らしを取り戻そうとする管理者と職員が、一丸となって努力したことに家族の立場に立つと頭の下がる思いがする。ピック病の患者のケアをするための実践的なグループホームを創った院長の意を汲み取り、このような人達に常に優しい心で、時には厳しい態度で接してきた管理者や職員のケアの積み重ねが、数々の修羅場をくぐり抜け今日に至って、利用者の顔々々々々々を見る事が出来る。家族が喜んで面会に訪問し、本人とゆっくり過ごせる姿を見た時、「これぞ、グループホームの目指す姿」を見せて貰った。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
スウェーデンから直輸入した建物と家具・調度品がうまくレイアウトされ、数多い絵画や装飾品がうまくマッチしている洋風スタイルの空間である。真直ぐに伸びた廊下には、画廊のような大きな幻想的な絵画が並び、リビングルームは、洋画に出てくるような家庭的なレストランのようにテーブルが置かれ、居室には絵画等の作品や写真が貼られている。
そこにお洒落した服装で、長い廊下やリビングルームの玄関を歩き回ったり、ソファに深く座っている人々と見守る職員、昼食の準備している利用者職員達が、この建物の空間によく馴染んでいる。このグループホームのオープン前に、個展を開いた通院患者さんの絵画や家族の作ったプロ級の作品が残り、家族や関係者全員で作り上げようとしている姿勢がよく分かる。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		